

～図書館だより～

R6年11月号

大西史華先生のおすすめ本

「先生、〇〇が〇〇しています！」シリーズ
小林朋道

日々の生活でふと、こんな体験をすることはありませんか？
授業中にトンボが乱入してきた、壁に大きなクモが張り付いている、廊下をコオロギが飛び回っている、などなど、...。
そういった場面に出くわしたらぜひ私を呼んで、失礼、話がそれましたね。私たちの日常生活の中にはたくさんの生き物たちが潜んでいます。それらはよくよく見ないとわからないものが多いですが、興味を持って接してみるととても面白い一面を見せてくれることがあります。

今回私が紹介する「先生、〇〇が〇〇しています！」シリーズには鳥取環境大学のコバヤシ教授が様々な生き物と出会い、面白い一面を発見していくお話が沢山入っています。黒やぎがビニール袋をかぶり、へびは脱走し、教授はつばめに襲われ、カエルに騙される...。一見なかなか寝付けられない時に見る悪夢のようなカオスを放つ言葉たちですが、一つ一つがコバヤシ教授の周辺で実際に起きた事件(らしきもの)です。それらの事件を生き物や学生さんを巻き込みながら解決していく様子に思わず笑ってしまうこと間違いなし(かもしれない)です。

皆さんが様々なことを学ぶこの紀南高等学校と同じくらい自然豊かな場所で繰り広げられる珍事件たちをぜひのぞいてみてください。

※図書室に全20巻そろえています※



❁ 新刊のおすすめ本 ❁



「こわいほん大賞 そわそわ部門」を受賞した
『鬼遊び① 鬼よぶわらべ歌』のシリーズです。

②地獄のお囃子・③髑髏の手まり歌・④闇の子守唄

鬼と子どもたちのこわい話のアンソロジー。「大人の注意を無視して遊びたい」「弱い者をいじめたい」「自分よりめぐまれている子が憎い」など、心のすきに鬼がつけこみます。



『読書は鼻歌くらいでちょうどいい』 大島梢絵

第1部のタイトルが「本はもっと気軽に読んでいい」。第2部のタイトルが「読みたい本の見つけ方」。第3部は「わたしの本棚」。「人間関係に悩んだ時に読みたい本」から「いつまでもだいすきな絵本」まで色々な本を紹介してくれます。かわいいイラストも素敵。

～文化祭で『押しフェス in 図書室』を開催します～
職員の推しを流しますので、のぞいてみてください。
新たな推しがみつかるかもです。

